

第八回 鬼怒川フォーラム 於 静岡

日 時

平成 24 年 3 月 3 日(土)～ 4 日(日)

場 所

ホテルアンピア松風閣
静岡県焼津市浜当目海岸通り星が丘

事務局

獨協医科大学 病理学 (人体分子)

司会 佐野病院 消化器センター
藤井隆広クリニック

佐野 寧
藤井隆広

基調講演 (発表 10 分)

『1996 年内視鏡学会パネルディスカッション “大腸ポリペクトミーはどこまで必要か”を振り返る』

佐野病院 消化器センター

佐野 寧

講演 1 (発表 30 分, 質疑応答 10 分)

『Review: The American Society for Gastrointestinal Endoscopy PIVI on real-time endoscopic assessment of the histology of diminutive colorectal polyps.』

佐野病院 消化器センター

岩館峰雄

講演 2 (発表 30 分, 質疑応答 10 分)

『Optical diagnosis of small colorectal polyps at routine colonoscopy (A Resect and Discard Strategy)』

大阪成人病センター 消化管内科

竹内洋司

パネル (60 分)

『5 mm 以下のポリープを採るべきか, 放置すべきか, あるいは Discard すべきか? 私はこう考える』

パネリスト:

岩館峰雄 (佐野病院 消化器センター)

竹内洋司 (大阪成人病センター 消化管内科)

和田祥城 (昭和大学横浜市北部病院 消化器センター)

池松弘朗 (国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科)

堀田欣一 (静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科)

松田尚久 (国立がん研究センター中央病院 消化管内視鏡科)

11:00 - 11:45

特別講演 4 (発表 35 分, 質疑応答 10 分)

司会 調布外科・消化器科内科クリニック
演者 藤田保健衛生大学消化管内科
『Microscopic colitis』

中村尚志
平田一郎

11:45

閉会の挨拶

藤井隆広クリニック

藤井隆広

直腸(Rb)癌の謎に迫る

藤井隆広クリニック¹⁾, 国立がん研究センター内視鏡部消化器科²⁾

藤井隆広¹⁾, 松田尚久²⁾

日本人の大腸癌は死亡率・罹患率ともに上昇を続けているなかで、結腸癌とくに右半結腸癌の増加に対し、直腸癌は減少傾向にあるとされている。しかしながら、直腸の進行癌は未だに多く、その前癌病変についての詳細は不明である。今回、その前癌病変を明かにすることを目的に検討を試みたが、直腸 Rb における前癌病変についての謎は深まるばかりである。直腸 (Rb) には過形成結節、過形成ポリープ、LST-G, carcinoid tumor などが多く認められるものの、de-novo 発癌の表面型腫瘍、とくに陥凹型腫瘍や LST-NG は少ない。

大腸癌の発育進展ルートには、adenoma-carcinoma sequence, de-novo 発癌に加え、近年、過形成性ポリープの一部が serrated adenoma や sessile serrated adenoma and polyp を介し大腸癌へ進展するとされる Serrated pathway も注目されている。このことから、直腸に多く存在する過形成性ポリープや過形成性結節、Aberrant Crypt Foci などが直腸癌の前駆病変という位置づけも考えられるが、現在までの報告では Serrated lesion の好発部位が直腸であるとも言い難い。直腸 (Rb) における前癌病変は何か？、大腸癌の発育進展を解明する上で、直腸 (Rb) のミステリーにスポットをあてた検討は大切なことと考え、データならびに症例を提示する。